

2006年度経営プラン

中間フォロー

2006年11月10日

取締役社長 石原 廣司



古河電気工業株式会社

目次

1. 2006年度上期ハイライト
2. 2006年度通期プラン

1. 2006年度上期ハイライト

2006年度上期ハイライト

上期業績

売上高	5,157億円	対前年上期比 + 28%
営業利益	239億円	対前年上期比 + 57%
当期純利益	148億円	対前年上期比 5.7倍

< 上期売上高・営業利益とも過去最高 >

2005年度上期売上高 4,032億円

2000年度上期営業利益 220億円

全5セグメントとも売上高・営業利益が前年上期比アップ

光ファイバ・ケーブルセグメント営業黒字化

OFS営業黒字化

連結上期損益

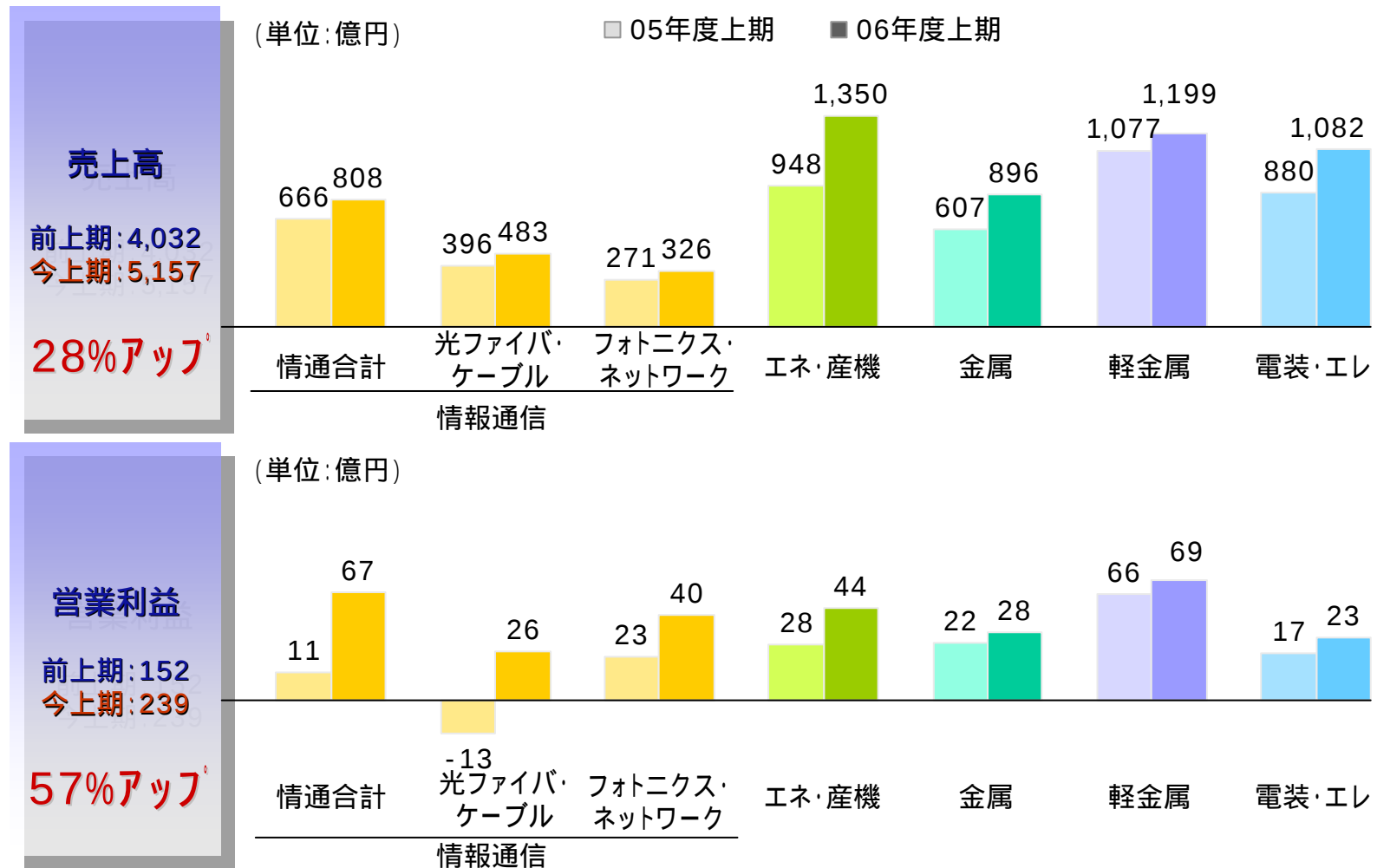
(単位:億円)

	05上期実績		06上期実績		対前年上期実績増減		前回見通し(8/3)	
	(A)	利益率 (%)	(B)	利益率 (%)	(C)=(B)-(A)	利益率変化 (ポイント)	(D)	利益率 (%)
売上高	4,032		5,157		1,125		5,050	
(うち単体)	1,730		2,406		677		2,400	
(うちOFS)	141		187		46		187	
営業利益	152	3.8%	239	4.6%	86	0.9	200	4.0%
(うち単体)	42	2.4%	59	2.4%	17	0.0	48	2.0%
(うちOFS)	30	-21.1%	1	0.4%	30	21.5	1	0.5%
経常利益	226	5.6%	202	3.9%	24	-1.7	160	3.2%
(うち為替損益)	83		14		97		21	
(除く為替損益)	143	3.5%	216	4.2%	73	0.6	181	3.6%
特別利益	45		132		87		102	
特別損失	187		30		157		12	
当期純利益	26	0.7%	148	2.9%	122	2.2	105	2.1%

(単位:円)

EPS	3.90	20.99	17.09	14.9
-----	------	-------	-------	------

セグメント別上期売上高・営業損益



06年度設備投資計画及び上期実績

◆ 素材力強化に向け積極化

498億円を投資 + 戦略ファンド活用
(償却費362億円)

上期の主な投資

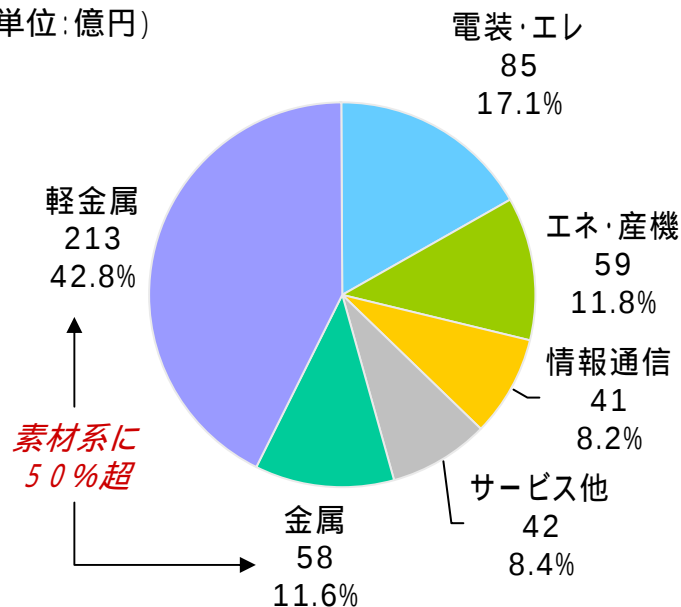
軽金属: 鋳造・焼鈍能力増、圧延モータ更新

金属: 圧延モータ更新、メッキ増産

エネ産機: 半導体テープ新工場建設

06年度計画

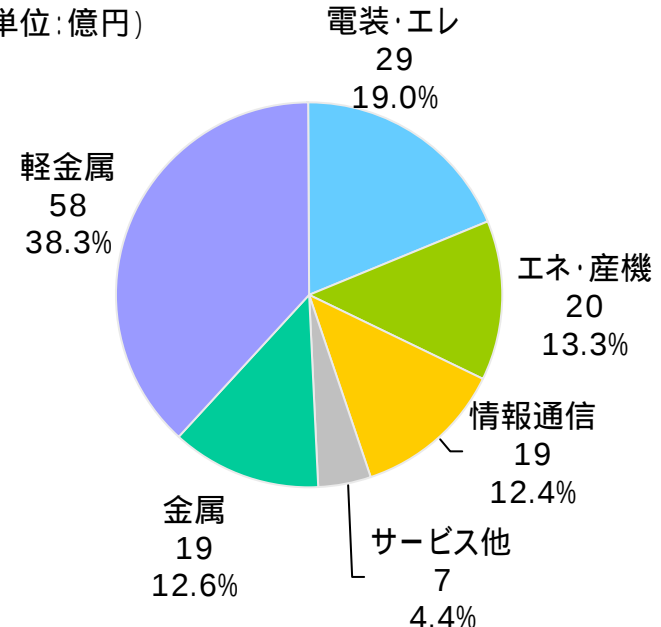
(単位: 億円)



498億円 (計画)

06年度上期実績

(単位: 億円)



158億円 (実績)

主な経営指標

(単位:億円)

	05年3月	06年3月	06年9月	07年3月予想
売上高営業利益率	3.1%	4.3%	4.6%	4.5%
総資産回転率	0.8	0.8	0.9	1.0
ROA (総資本営業利益率)	2.4%	3.6%	4.4%	4.4%
ROE (株主資本当期純利益率)	9.0%	11.4%	13.0%	8.7%
有利子負債残高 (億円)	4,823	4,353	4,466	4,347
04年3月残5,847億円からの累積削減額	→ (1,025)	(1,495)	(1,328)	(1,500)
D / E レシオ	2.7	2.0	2.0	1.9

(ROE, D/Eレシオの株主資本は少数株主・繰延ヘッジ損益を除く従来ベース)

(↑年率換算)

2006年度施策と上期トピックス

06年度施策

成長へ向けた
積極投資

海外事業の
拡大

資産効率の
改善

今
期
で
効
果

事業・アライアンスの拡大

- タムラ製作所とリフロー炉合併(06年10月設立)

為替リスクの低減

- OFS親子円建てローン減額(755億円 600億円)

資産効率の改善

- 遊休不動産の売却(特別利益102億円)

中
期
で
効
果

成長へ向けた積極投資

- 中国ワイヤハーネス事業の強化(戦略ファンド20億円)
- 車載用・電子用銅条30%増産(戦略ファンド50億円+30億円)
- 高機能銅箔20%増産(25億円)

海外事業の拡大

- 中国自動車ビジネス強化
- M & A, アライアンス推進(独トロセレン連結、ネクサス合併設立、米カハラフォトリクス技術提携など)

資産効率の改善

- 棚卸し在庫・売掛金削減強化

2. 2006年度通期プラン

2006年度通期プラン

業績予想上方修正

売上高 10,500億円

対前回予想 + 3% 対前年度 + 20%

営業利益 470億円

対前回予想 + 9% 対前年度 + 26%

下期前提

為替 115円/ドル

銅 900円/kg

アルミ 300円/kg

ファンダメンタルズ堅調
につき高値安定を想定

連結通期損益 新予想

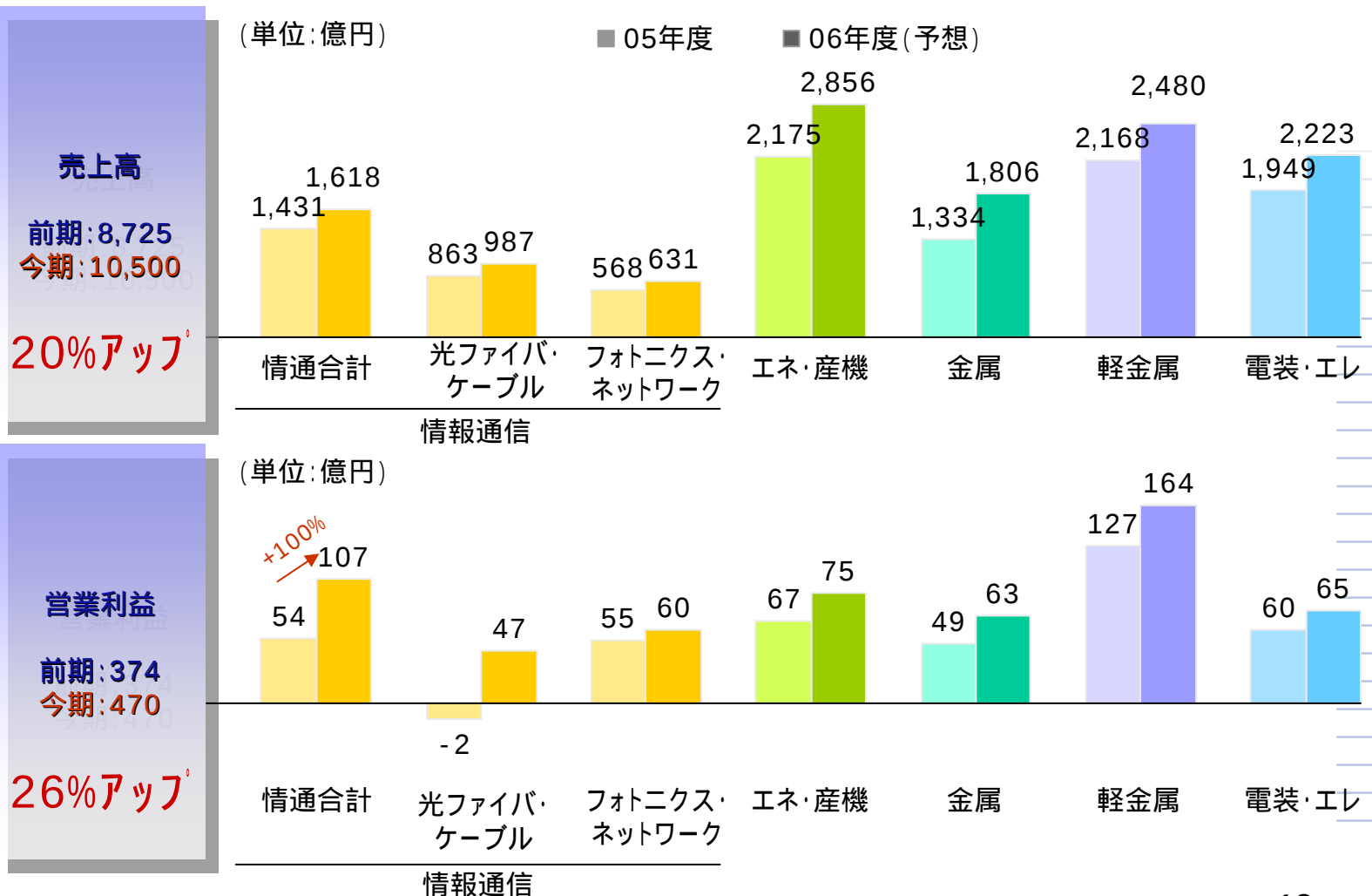
(単位:億円)

	05実績		06予想		対前年増減		前回見通し(8/3)	
	(A)	利益率 (%)	(B)	利益率 (%)	(C)=(B)-(A)	利益率 (ポイント)	(D)	利益率 (%)
売上高	8,725		10,500		1,775		10,200	
(うち単体)	3,825		4,950		1,125		4,800	
(うちOFS)	313		387		74		375	
営業利益	374	4.3%	470	4.5%	96	0.2	430	4.2%
(うち単体)	114	3.0%	110	2.2%	4	-0.8	98	2.0%
(うちOFS)	50	-16.0%	1	0.3%	51	16.2	1	0.3%
経常利益	470	5.4%	400	3.8%	70	-1.6	320	3.1%
(うち為替損益)	142		18		160		46	
(除く為替損益)	328	3.8%	418	4.0%	90	0.2	366	3.6%
特別利益	385		137		248		110	
特別損失	409		57		352		45	
当期純利益	255	2.9%	200	1.9%	55	-1.0	150	1.5%

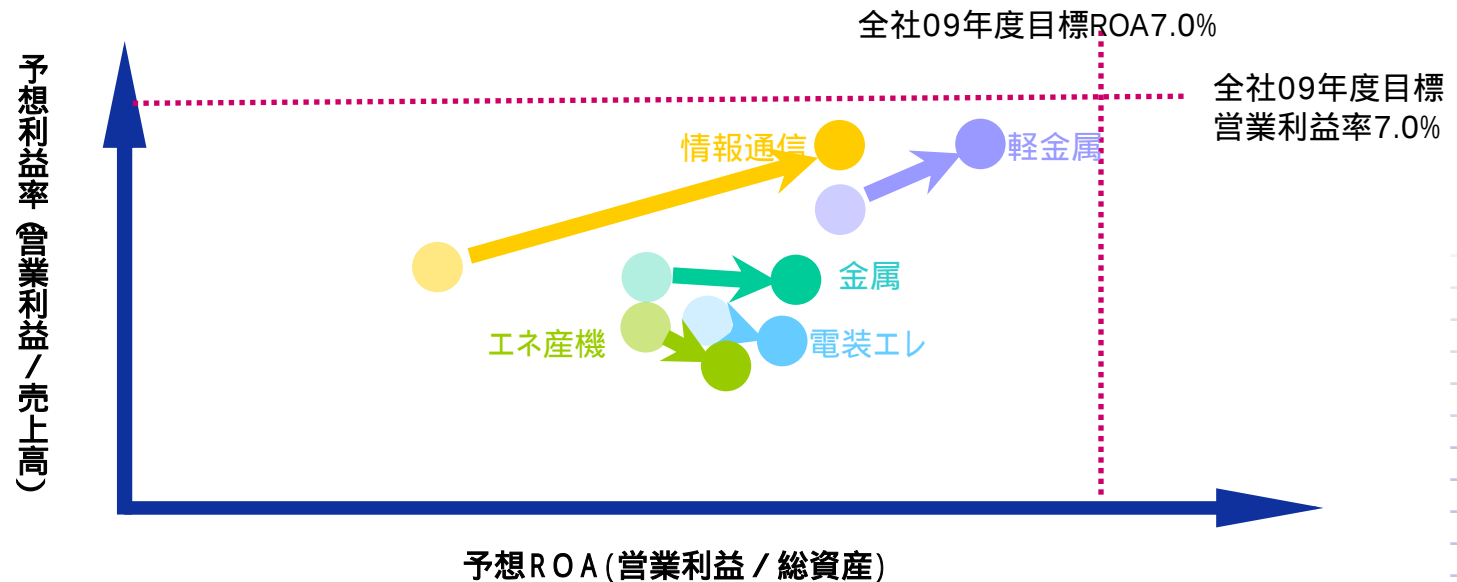
(単位:円)

EPS	36.94	28.33	-8.61	21.2
-----	-------	-------	-------	------

セグメント別通期売上高・営業損益予想



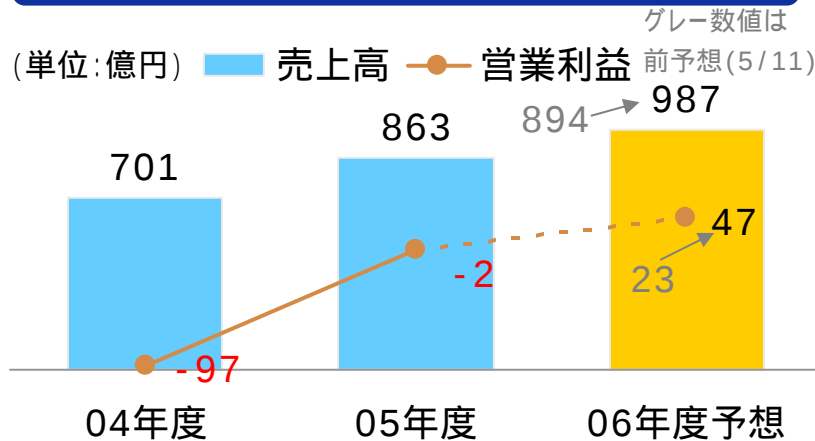
事業ポートフォリオ変化: 05年度 06年度予想



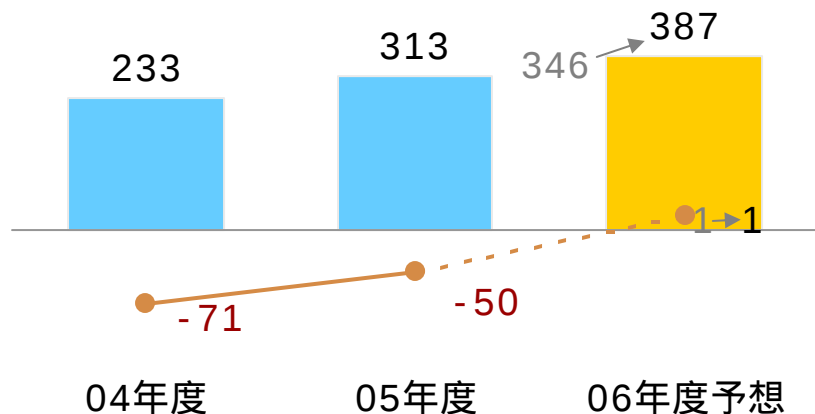
	05年度 利益率%	06年度予想 利益率%	05年度 ROA%	06年度予想 ROA%
● 情報通信	3.7	6.6	2.7	5.4
● エネ・産機	3.1	2.6	4.0	4.4
● 金属	3.6	3.5	3.9	5.0
● 電装・エレ	3.1	2.9	4.4	4.7
● 軽金属	5.9	6.6	5.2	6.2
全 社	4.3	4.5	3.6	4.4

情報通信 < 光ファイバ・ケーブル >

売上高及び営業利益の推移



うちOFS業績



06年度上期実績(前年同期比)

- ◆ 売上高: 483億円(+22%)
- ◆ 営業利益: 26億円(+39億円)
 - 国内通信・携帯・鉄道向け光ケーブル好調
 - 米OFS営業黒字化
 - ブラジル、タイ等の海外子会社も堅調

06年度施策

国内外とも下期需要は慎重視

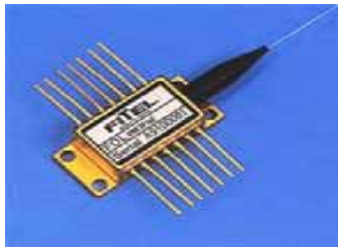
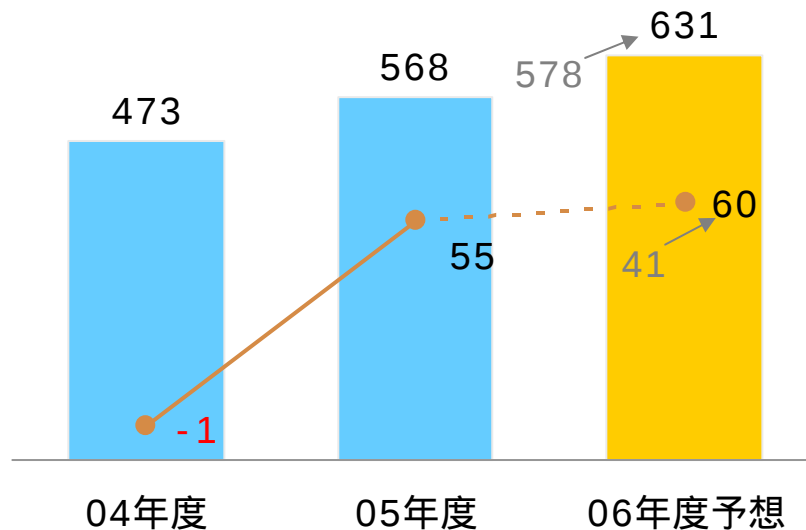
- ◆ 米OFS事業
 - 生産性アップによる黒字体質定着
- ◆ 光ファイバ
 - グローバル供給体制の確立

情報通信 < フォトニクス・ネットワーク >

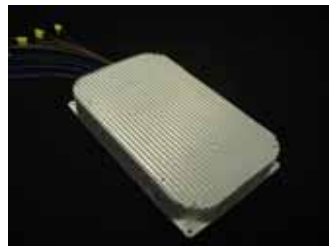
売上高及び営業利益の推移

(単位:億円) 売上高 営業利益

グレー数値は
前予想(5/11)



半導体レーザ



ROADM

(波長可変型光スイッチ)

06年度上期実績(前年同期比)

- ◆ 売上高: 326億円(+20%)
- ◆ 営業利益: 40億円(+17億円)
 - FTTH関連部品好調
 - 半導体レーザ高採算品増、光アンプ低調
 - ネットワーク製品好調

06年度施策

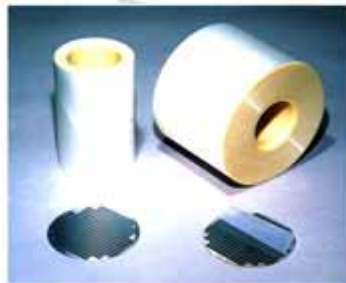
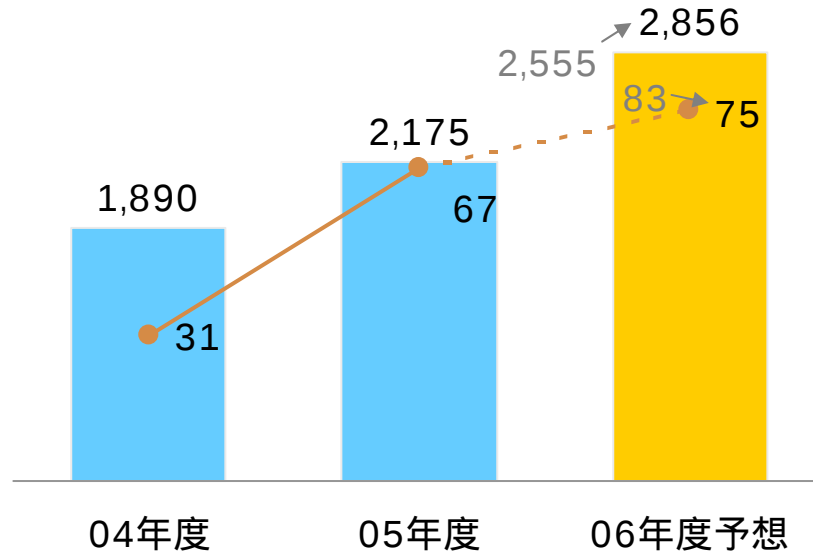
- 次世代ネットワーク用光機器の開発加速
DWDM用「波長可変型」コアコンポーネント
- 海外生産によるコストダウン強化
レーザはタイ、光アンプは中国に集約加速

エネルギー・産業機材

売上高及び営業利益の推移

(単位:億円) ■ 売上高 — 営業利益

グレー数値は
前予想(5/11)



半導体テープ



超微細発泡樹脂MCPET

06年度上期実績(前年同期比)

◆ 売上高: 1,350億円(+42%)

◆ 営業利益: 44億円(+16億円)

- 堅調な民間設備投資で産業電線好調
- 産業機材は半導体テープ、液晶TV向けMCPETが堅調

06年度施策

◆ エネルギー

- 中国超高压ケーブルビジネスの強化
- ビスカス、ネクサス海底線合併11月設立

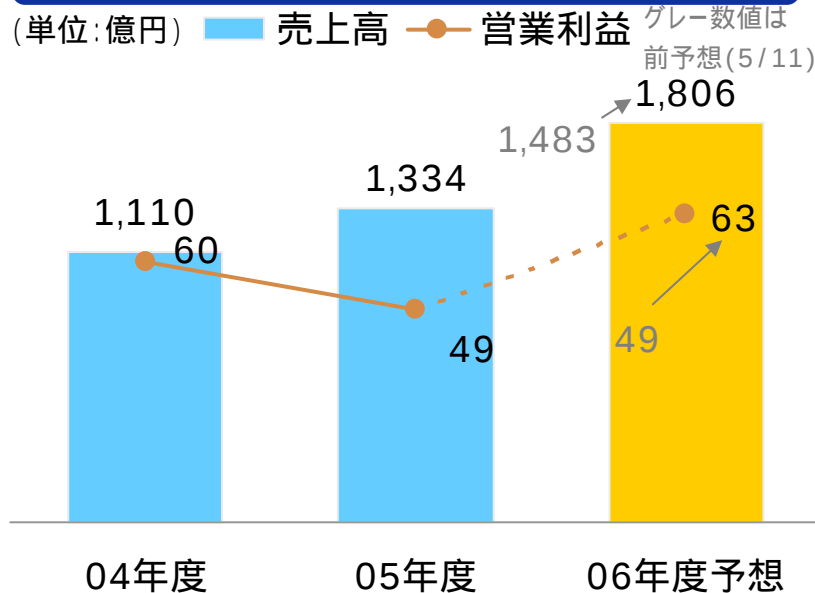
◆ 産業機材

- 半導体テープ新工場建設(戦略ファクト)

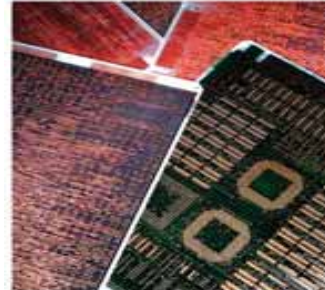
* 本年度より独トロセレン社を連結しています。

金 属

売上高及び営業利益の推移



リードフレーム用銅条



電解銅箔応用例

06年度上期実績(前年同期比)

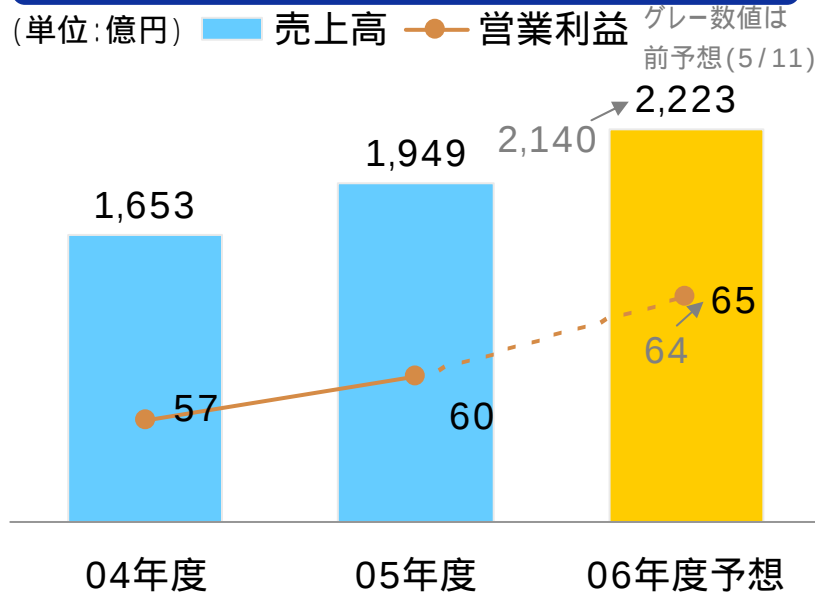
- ◆ 売上高: 896億円(+48%)
- ◆ 営業利益: 28億円(+5億円)
- 銅条・銅管とも1Q低迷、2Q回復
- 高機能銅箔の好調持続、20%増産前倒し

06年度施策

- ◆ 電子材
 - 戦略ファンド50億円+設備投資30億円の計80億円で自動車・デジタル家電向け銅条設備強化
- ◆ 電解銅箔
 - FPC、Li電池、PDP向け高機能箔強化

電装・エレクトロニクス

売上高及び営業利益の推移



エアバック用コネクタSRC



ハードディスク用メモリディスク

06年度上期実績(前年同期比)

- ◆ 売上高: 1,082億円(+23%)
- ◆ 営業利益: 23億円(+6億円)
 - 自動車用ハーネス・部品好調
 - HDD用メモリディスク生産過去最高ペース

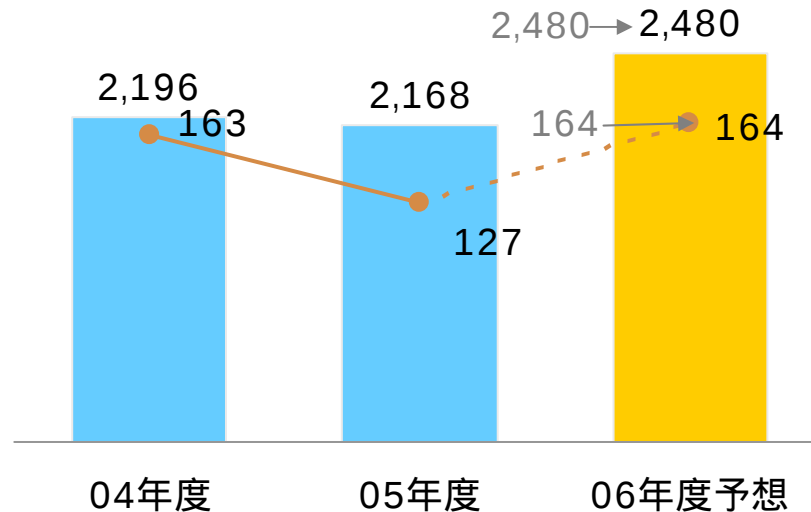
06年度施策

- ◆ 自動車部品
 - ハーネス・部品とも拡販
 - 中国事業拡大、インド合併設立
- ◆ エレクトロニクス・巻線
 - メモリディスク・サーマル製品拡販
 - 小型トランス用三層絶縁電線 TEX 増産

軽金属

売上高及び営業利益の推移

(単位:億円) ■ 売上高 ● 営業利益 グレー数値は
前予想(5/11)



LNG船用タンク材



コンプレッサーホイール



06年度上期実績(前年同期比)

◆ 売上高: 1,199億円(+11%)

◆ 営業利益: 69億円(+3億円)

- IT需要回復、自動車はじめ輸送部門好調持続、缶材は低迷(天候不順)
- 原油・原材料価格の高騰による製造コスト増が利益に影響

06年度施策

- ◆ 営業施策: 優位品種拡販と採算改善
 - IT関連産業、輸送分野への対応強化
 - コストアップ分の販売価格への転嫁
- ◆ コストダウン
 - 板生産集約進捗
 - 設備更新(新間接押出プレス、板熱延ラインモーターAC化)
- ◆ 増産対応
 - 中国・東南アジア量産開始(押出・鋳物)
 - 福井鋳造炉増強着手

配当について

年間5円 6円に増配

◆中間期 2.5円 3円

◆期末 2.5円 3円

理由：当初予想比で
利益増のため

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。